2015年5月1日発行

THE JAPAN SOCIETY FOR INTERCULTURAL STUDIES 日本国際文化学会ニューズレター30号

http://www/jsics.org/

日本国際文化学会事務局 753-8502 山口県山口市桜畠3-2-1 山口県立大学 国際文化学部事務室内 Tel/Fax:083-928-3423 email:jsics@yamaguchi-pu.ac.jp

ご挨拶

日本国際文化学会会長(2015-2016年度会長) 小林 文生 この春より会長を仰せつかりました小林です。

喩えていえば、大きな河の流れに小さな支流がいつの間にか合流して、大海を目指してたゆたううちに、強いうねりがぐいぐいと前進していくその奔流に身を委ねる心地よさを覚える、そのように今の日本国際文化学会の力と魅力を感じています。長年にわたる諸先輩による活発で粘り強い議論と実践の結実として、いよいよ文化交流創成コーディネーター資格認定制度が始動しました。第一回目の申請とその審査及び認定が進行中であり、そして夏には第一回目の短期集中セミナーが実施されます。それに向けて、参加認定委員会の馬場孝委員長(副会長)、資格審査委員会の岡眞理子委員長(副会長)、運営事務局の松居竜五事務局長、および委員会と事務局メンバーの皆様には、とくに多大なご尽力をいただいています。国際文化学を学んだ学生たちが、本制度による資格認定を申請することによって、具体的な「文化の創成」という現場に立ち会い調整する自らの能力を試し、そのことによってそれぞれの生き方を新たに認識していく機会であるという意味で、国際文化学の研究と並行する、その教育の成果がひとつの形をとって目に見えることになる大切な年です。

また、本年度の大会は多摩大学に主催校となっていただき、安田震一実行委員長のもと、「国際文化交流としてのグローバルツーリズム」というテーマで着々と準備が進められています。現代のホットな主題に、国際文化学の新たなもう一つの魅力が見いだされることを期待しています。共通論題、自由論題も幅広いテーマが出そろいました。湘南キャンパスで皆様とお目にかかるのを楽しみにしております。

学会年報『インターカルチュラル』第13号は、若林一平編集委員長の並々ならぬ情熱によって、数々の優れた論文等の掲載とともに、昨年度山口県立大学で開催された全国大会でのセリグマン博士の講演とシンポジウムの様子が見事に再現されるとともに、一昨年度の全国大会における龍谷大学アフラシア多文化社会研究センターとの共催によるシンポジウムの内容が英語版による別冊「特別国際版」として刊行され、いずれもきわめて貴重な記録として残されることになりました。

事務局は、岩野雅子事務局長のもと、引き続き山口県立大学でお引き受けいただくことになり、心強いかぎりです。頼りすぎて無理なご負担をおかけしないように注意しなければと自戒しています。

最後に一言、私がいま思う国際文化学について。フランスの作家で行動の人でもあったアントワーヌ・ド・サン=テグジュペリが、その小説『夜間飛行』の中で「人生には解決法なんかないのだよ。人生にあるのは、前進中の力だけなんだ。その力を造り出さなければいけない。それさえあれば解決法なんか、ひとりでに見つかるのだ。」(堀口大學訳)と作中人物のリヴィエールに言わせています。ここでいう「前進中の力」を、困難で解決不可能に見える様々な状況や関係と向き合う際の、忍耐強い思考力と行動力と理解するなら、国際文化学が追究しているものの少なくとも一つは、そのよ

うな「力」ではないかと思っています。白石さや前会長がよくおっしゃっていた「日本国際文化学会は楽しい!」に共感することが多く、ともに歩ませていただいています。これからも力を持つ堅実な内容の伴う「楽しい」を、ぜひ皆様とともに創り上げていければ幸いです。

2015年度第14回全国大会 「国際文化交流としてのグローバルツーリズム」へのお誘い

第14回全国大会実行委員長 安田 震一

Welcome to Tama University School of Global Studies. We are honored and more than happy to be your host.

会員のみなさま、こんにちは。この度、2015年日本国際文化学会第14回全国大会を多摩大学グローバルスタディーズ学部(湘南キャンパス)にて開催させていただくことになりました。昨年は山口県立大学、2013年は龍谷大学と2年ぶりに関東圏で行われる全国大会の開催校に選んでくださったことに感謝しております。大きな責務も感じてはおりますが、皆さまのご協力のもと、心に残る全国大会にできれば幸いでございます。

多摩大学は1989年に創立し、国際性、学際性、実際性の3のキーワードとした建学の理念として展開してきました。大学院は1993年、そしてグローバルスタディーズ学部が2007年に設立された2学部、1大学院からなる教育機関です。湘南キャンパスは、少人数制授業、教員と学生の距離が近いという特徴を持った、手作り感溢れるキャンパスです。本学部では1年次のAcademic English Program (AEP)、2年次からホスピタリティ・マネージメント・コースとインターナショナルスタディーズ・コースに分かれます。その後、卒業までに実社会で通用する問題解決思考を身に着けた上で観光産業、サービス業、国際物流、国際組織、外資系企業など、グローカル人材として活躍できるように教育を行っております。目を世界に向けた学部でございますので全教員の半数近くはネィティブスピーカー、日本人教員であっても海外の大学における学位取得者を多数配置しております。

また、グローバルスタディーズ学部は留学を推奨し、海外で得た知識およびその体験から自信を養い、その自信を基に社会に貢献してほしいと考えています。寺島学長が推奨する「移動は人を賢くする、賢くなると進歩がある」という理念のもと、文化の違いを乗り越え「歩み寄る」(compromise or come to terms with)ことができるような次世代の若者を輩出するよう日々尽力しております。

今回の全国大会では、グローバルスタディーズ学部の専門コースの一つである観光・ホスピタリティを中心に「国際文化交流としてのグローバルツーリズム」と趣旨を掲げさせていただきました。また基調講演といたしまして学長寺島実郎による「観光立国への戦略的視座」を設けさせていただきました。寺島学長の基調講演では、人材育成を司る大学が今後の日本の観光産業の発展にどう関わるかということについての講演となります。その後、基調講演の内容をふまえて「インバウンド・ツーリズム」についてパネリストをお招きしてシンポジウムを開催致します。また、自由論題および共通論題などの研究発表も例年通り実施いたします。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げております。

最後となりますが、大会実行委員 長という大任の名に恥じぬよう、大 会を成功させるために精進して参る 所存でございます。是非ともみなさ まのご指導、ご支援、忌憚のない ご助言等を頂戴できますよう、よろ しくお願い申し上げます。





湘南キャンパス概観

●全体日程 (概要)

<7月4日 土曜日>

・ 9:00- 受付

·10:30-12:00 自由論題A⋅B⋅C発表

·12:00-13:15 昼食、常任理事会·理事会

・13:30-15:30 共通論題①「新自由主義世界における多文化主義とナショナリズム―政治理論

的検討」(代表者:白川俊介)

共通論題②「性の規範を問いただす―"アブノーマルな"セクシュアリティか

らの逆照射―」(代表者:吉岡剛彦)

・15:45-17:45シンポジウム「国際文化交流としてのグローバルツーリズム」

基調講演:「観光立国への戦略的視座」:多摩大学学長 寺島実郎

パネルディスカッション: 「インバウンド・ツーリズムの可能性と課題をめぐって」

パネラー:江上いずみ、髙井規子、鳥飼玖美子、太田哲

モデレーター:齋藤 理

· 18:15-19:45 情報交換会

<7月5日 日曜日>

・ 8:30- 受付

9:30-11:30 自由論題D・E・F・G発表

·11:40-12:50 昼食、総会、第5回平野健一郎賞表彰式

文化交流創成コーディネーター資格認定優秀者による発表

・13:00-14:00 フォーラム「文化交流創成コーディネーターの誕生」

文化交流創成コーディネーター資格認定優秀者による発表、資格審査委員からのコメント

·14:15-16:15 共通論題③「「伝統」は現代にどのように生きるか―実践的取り組みを通して」

(代表者:鈴村裕輔)

共通論題④「「文化を紡ぐ人材」が、これからの社会にもたらすもの」

(代表者:斎藤理)

●場 **所:**多摩大学湘南キャンパス (〒252-0805 神奈川県藤沢市円行802番地)

日本国際文化学会第14回実行委員会 Tel: 0466-82-4141 Fax: 0466-82-5070

アクセス: http://www.tama.ac.jp/info/guide shonan.html

●大会参加費について

一般会員 2,000円(当日2,500円) 一般非会員 3,000円(当日3,500円)

院生・学生 1.000円 (当日1.500円)

情報交換会 一般4,000円 院生・学生 2,500円

お弁当代(お茶つき) 7月4日 1,000円 7月5日 1,000円

*学会開催日に当たる週末は学生食堂が閉まっており、会場周辺には食堂やお店がありません。

お弁当の予約をお勧めします。

●大会参加申し込みと払込先

大会準備のため、2015年6月20日(土)までに、同封の登録用紙(郵送あるいはファックスで)、あるいは、学会ホームページから登録用紙をダウンロードしてメールで、上記の大会実行委員会までお申し込みをお願いします。

ニューズレターに同封した振込用紙に、上記の必要事項をご記入の上、6月20日(土)までにお振り込みください。 振込先:01390-1-89396 日本国際文化学会

●宿泊先:相鉄フレッサイン藤沢湘南台に各自でご予約ください。できるだけ早めの予約をお願いいたします。

(〒252-0804 神奈川県藤沢市湘南台2-12-6 相鉄線/小田急線/横浜市営地下鉄湘南台出口B・Dより徒歩2分 Tel: 0466-41-2031 https://fresa-inn.jp/shonandai/)

※ご予約の際に、「日本国際文化学会全国大会での予約」である旨をお伝え頂ければ、優先的に予約することができます。その他の宿泊先については各自で検索等お願いいたします。その他、湘南台第一ホテルがございます。

●大会日程と会場一覧

7月4	4日 (土) *事前登録者数により教室が変更されることがありま			
時間	プログラム		場所	
9:00~	受付・荷物預かり所			
10:30~ 12:00	自由論題A 司会:川村 陶子 (成蹊大学教授)	大山 貴稔(筑波大学大学院人文社会科学研究科国際公共政策専攻博士後期課程) 「国際貢献」の軌跡―冷戦後の日本における国際関係認識の一断面―	E202	
		福田 州平(大阪大学グローバルコラボレーションセンター特任研究員)フィラデルフィア万博の機械館に見るアメリカのソフト・パワー		
		岡 眞理子(青山学院大学総合文化政策学部教授) アンスティチュ・フランセの設立とフランスの影響力外交		
	自由論題B 司会:鳥飼 玖美子 (順天堂大学特任教授)	小林 葉子(岩手大学人文社会科学部国際文化課程准教授) 海外語学体験からの脱却:教養系分野による模索と課題	E204	
		ブライアン・イングリッシュ (多摩大学グローバルスタディーズ学部教授) Preparing Japanese University Students for Study Abroad		
		曲建武(中国大連海事大学)、馬其南(中国遼寧省中医薬大学) 「人文化成」から大学の文化属性を読み取る		
	自由論題C 司会:木原 誠 (佐賀大学教授)	越智 淳子(早稲田大学アジア研究機構アジア・北米研究所、日韓グローバル研究所招聘研究員) 大岡信の海外連詩に関する考察-参加詩人それぞれの文化背景をめぐって	E208	
		松居 竜五(龍谷大学国際学部教授) ハーバート・スペンサーと南方熊楠		
12:00~	昼食 お弁当引渡し		学食	
12:00~ 13:15	常任理事会・理事会		W301	
13:30~ 15:30	共通論題①	白川 俊介(九州大学比較社会文化研究院特別研究員)ほか3名 新自由主義世界における多文化主義とナショナリズム—政治理論的検討	E202	
	共通論題②	吉岡 剛彦(佐賀大学准教授)ほか4名 性の規範を問いただす—"アブノーマルな"セクシュアリティからの逆照射—	E204	
15:45~ 17:45	シンポジウム	基調講演 寺島 実郎(多摩大学学長)「国際文化交流としてのグローバリズム」 パネルディカッション「インバウンド・ツーリズムの可能性と課題をめぐって」	E301	
18:15~ 19:45	情報交換会	会員、非会員、パネラー、受け入れ大学教職員等との交流会	学食	

7月5日(日)				
時間	プログラム			
8:30~	_ ^ _ ^ _ /		アゴラ前	
9:30~ 11:30	自由論題D 司会:小林 文生 (東北大学教授)	曹 臻 (大阪大学大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻博士後期課程)「クールジャパン戦略」の可能性と限界―東アジアにおける若者の意識調査から 片岡 悠平 (国立政治大学コミュニケーション学部テレビ放送学科修士課程) 「文化的近似性」による台湾の日本文化再生産ー「哈日族」の出現から	E202	
	自由論題E	「流星花園」製作に到るまで 牧野 由香里(関西大学総合情報学部教授) 対照修辞研究の文化差を超える十字モデル漫画教材の開発 齋藤 絢(名古屋外国語大学外国語学部日本語学科助教)	E204	
	司会:馬場 孝(静岡文化芸術大学教授)	韓国社会における民衆歌謡の伝承性について一民主化運動前後から 現在までを中心として一 倉 真一(宮崎公立大学人文学部国際文化学科准教授) 外国人移民に映し出される強いネーションへの願望		
		大形 利之(東海大学国際文化学部国際コミュニケーション学科教授) IS(イスラーム国) とインドネシアとの関わりについての一考察 奥村 みさ(中京大学国際英語学部教授)		
		シンガポールにおける文化遺産政策とツーリズム—英語圏文化を 包摂したナショナル・アイデンティティの構築		
	自由論題F 司会:安田 震一 (多摩大学教授)	吉田 絵弥(京都大学文学研究科行動文化学専攻社会学専修修士課程) 日本人高齢者のタイへの国際引退移動と生活位相選別 堂下 恵(多摩大学グローバルスタディーズ学部准教授)	E206	
		イギリス・コーンウォール地域の景観に対するグローカルな価値付け 一景観ツーリズムの事例より一		
		田中 孝枝(多摩大学グローバルスタディーズ学部専任講師) 「日本的サービス」の解釈一在中国日系旅行会社の職場を事例として一 斉藤 理(山口県立大学国際文化学部准教授)		
		動詞抽出調査法をベースとした観光まちづくりの可能性について		
	自由論題G 司会:若林 一平 (文教大学名誉教授)	川村 湊(法政大学国際文化学部教授) 原爆を読む・原発を観る	E208	
		桐谷 多恵子(広島市立大学・広島平和研究所講師) 「核権力と文化―占領体制下における広島・長崎の「復興」を事例に―」		
		若林 一平(文教大学名誉教授) 日本の原爆と原発における専門職業人の社会的責任とは		
		奥田 孝晴(文教大学国際学部教授) 「負の公共性」論を乗り越えるために…〜基地と原発が表象する中枢 一周辺関係から「私たちの公共性」作りを考える〜		
11:40~	昼食 お弁当引渡し		E301	
11:50~ 12:50	総会、第5回平野健一	-郎賞表彰式	E301	
13:00~ 14:00		コーディネーターの誕生」文化交流創成コーディネーター資格認定優秀者による発表	F202	
14:15~ 16:15	共通論題③	鈴村 裕輔(法政大学国際日本学研究所客員学術研究員)ほか3名 「伝統」は現代にどのように生きるか―実践的取り組みを通して	E202	
	共通論題④	斎藤 理(山口県立大学准教授)ほか4名 「文化を紡ぐ人材」が、これからの社会にもたらすもの	E204	

学会年報『インターカルチュラル第14号』 投稿論文募集開始

2014年度会費を納入された会員のみなさまには、2014年度末に発行した『インターカルチュラル第13号』に加え、『別冊』『セリグマン氏講演記録』をお届けしました。

2015年度の全国大会を控え、『インターカルチュラル第14号』投稿論文の締め切りをお知らせします。投稿規程等の詳細については、『インターカルチュラル』第13号、p.219あるいは学会ホームページでご確認ください。

● 応募締め切り:2015年8月20日(木)必着

● 応募先:編集委員会事務局宛

Email: intercultural2015@gmail.com

研究会の募集を開始します

2015年度の研究会の募集を開始します。会員相互の研究研鑽や研究交流を目的とした研究会を開催していただきたくことを目的としています。主旨を踏まえた提案をお待ちしています。

● 応募締め切り:2015年6月30日(火)必着

● 応募先:日本国際文化学会事務局宛 Email:jsics@yamaguchi-pu.ac.jp

2015年度会費納入のお願い

2015年度会費納入をお願いいたします。

一般会員:10,000円、大学院生:5,000円、学部生:2,000円

同封の振込用紙をお使いいただくか、あるいは、郵便局の振込用紙をご利用いただき、振込金額をお書きの上、下記振込先までお願いいたします。ご所属、連絡先、お支払の会費年度のご記入をお願いいたします。

振込先:01390-1-89396 日本国際文化学会

* 平成25年度総会により、年会費(10,000円)の支払いに困難を覚える者は、その状況説明を付けて常任理事会宛に会費の減額(5,000円)を申請できるとしました。平成25年分から適応されます。希望者は、常任理事会宛てに理由書を提出ください(書式自由、学会事務局まで郵送)。

編集後記

2013-2014年度会長のもと、学会の進む方向性についてさまざまな議論を踏まえた上で、思い切った舵取りをしていただいた二年間が終わりました。この間、大胆かつ柔軟な姿勢に多くのことを学ばせていただきました。会員のみなさまからは数々のご支援、ご協力をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

2015 - 2016 年度会長に交代し、ここからまた次を目指しての出港です。波音が心地よい航海になるよう、事務局一同、努力して参ります。また、年度途中の寄港地にて時々の事業を楽しんでいただき、新しい乗員にも加わっていただいて賑やかな船旅となるよう務めたいと思います。会員のみなさまからのご意見、ご要望もぜひお寄せください。 (日本国際文化学会事務局)